

市民と議会との語る会実施報告書

日	時	令和2年10月29日(木) 午前10時
会	場	越前市役所 第3委員会室
出席議員		小玉俊一会長、川崎悟司、大久保恵子、題佛臣一、大久保健一、中西昭雄
参加者(市民)		まちづくり武生株式会社 常務取締役 清水俊行 越前市観光協会 事務局長 増田順司 越前市観光協会 統括ディレクター 宮地広樹
開会挨拶・ 司会・報告・記録		挨拶・司会:小玉俊一
協議事項		<p>1部 事業概要説明 まちづくり武生株式会社及び観光協会から、それぞれの事業について、説明を受ける。</p> <p>2部 意見交換・質疑応答 Q:インバウンド事業は、全体で3億円ほど使われているが、その進捗状況は。 A:事業は3年間の取り組みであり、1年目は調査事業として越前市の観光的な素材の調査とまとめを行った。それに基づき、2年目は、プランの開発や交通整備、受け入れ体制の構築などを進めてきた。3年目になる今年度は、実際の誘客に進める予定だったが、コロナの影響で事実上できない状態にあるため、プランの強化など、来年度以降も使えるものを充実させていく方向にシフトしているところである。</p> <p>Q:以前は、まちなか駐車場があったが、今はなくなって、町の中で駐車場が見当たらない。県外の方の駐車場はどのように確保されているのか。 A:まちなか駐車場の閉鎖後、スポット的な駐車場の確保は課題として捉えており、空き地活用など、調査を実施している。なんとか、そういう場所を設けたいと考えている。 また、バスに関する観光駐車場としては、中央公園の駐車場を案内している。</p> <p>Q:インバウンド事業は、3年の事業であり今年度で終了することになると思う</p>

が、来年以降に残るものとして、どういったものが挙げられるか。

A: 来年以降に残すものとして、一番大事であると考えているのは、何か物とかではなく、意識であると考えている。一過性で消えてしまうプロモーションや広告に金をかけるよりも、仕組みや人材づくりにシフトを増やしている。協会内では若手職員が多いことから、旅行業登録を行ったうえで、ノウハウの伝達を行うなど、来年以降も持続的に活躍できるよう人材育成に励んでいる。

Q: プロの目線から見て、越前市の魅力が持つ誘客としてのポテンシャルはどの程度のものか。

A: 現状は1万人弱の誘客となっているが、この10倍、10万人程度を呼び込みうる魅力、ポテンシャルはあると思っている。ただし、実際に受け入れが可能な設備や交通が整っているかは別であり、様々な課題がある。魅力だけでなく、ハード、インフラ部分もあわせて整えなければ、そこまでの人数に達することはできないというふうに感じている。

令和2年11月30日

越前市議会議長 様

産業建設委員会 委員長 小玉俊一